

タイトル：「食べたい」を直ぐに

キーワード

個別アプローチ
その人らしさ
フキの煮物

キーワードについては必ず3つ記入の事！！

特養、養護、軽費、ケアハウス、デイ、小規模多機能、GH、居宅、老健、その他 いずれかを記載

施設種別	特養	施設名	特別養護老人ホーム清光園
------	----	-----	--------------

研究者 (取組に関わった方 のお名前5名まで)	氏名	職種	備考
	① 浦川智美	管理栄養士	
	② 三ツ井香菜絵	介護支援専門員	
	③		
	④		
	⑤		

施設の概要

※ここに記載した内容のうち、発表内容に直接重要な関係を持たない事項については、本資料をもって発表の際の説明から省略してください。

設置主体	社会福祉法人清光園	経営主体	社会福祉法人清光園
開設年月日	昭和50年11月	所在市町村	夕張市
市町村人口	8612 人	65歳以上人口 (高齢化率)	5,116人 (高齢化率 59.4 %)
利用者定員数	105 人	利用者平均年齢	86.3 歳
職員数	97 人	職員数内訳	介護職 76 名 看護職 7 名
併設施設・事業	短期入居事業所		
施設のサービスの概要	高い専門性に裏付けられた、良質なユニットケアを提供する。		

発表の概要

<p>①取り組み課題 現在82歳のAさん（女性）2003年から独居で生活。2009年パーキンソン病、アルツハイマー型認知症、2013年進行性核上性麻痺の既往あり。2012年からデイサービスを利用しながら生活を続けていた。2017年自宅のトイレで転倒され、脳挫傷、胸椎圧迫骨折、廃用症候群あり。認知症の進行からリハビリでの改善は困難。食事は自力摂取されるものの、摂取量が少なく栄養剤を飲用。在宅復帰困難のため、入居となる。入居後も廃用症候群のせいか活気なく、声掛けにも発語が少なかった。食事摂取量も徐々に低下し、栄養剤に頼る食生活となり、体重の低下も見られた。</p> <p>②具体的な取り組み 2017年9月入居される（食事形態は米飯・きざみ食） 2018年1月ご家族の差し入れで常食を食べられていることから、ご家族と多職種で食事形態の変更を検討し、副食を常食へ変更する。 2月麺類とパン類の摂取が比較的良好だったため、嗜好の把握を含めてお試しで提供を始める。 3月麺類はうどん、素麺が好みと把握できたので、本人の体調をみて適宜提供とし、パン類は朝食に提供とした。 4月ご家族（娘様）参加していただき担当者会議を開催。 娘様「家でもつ煮たり、煮物作ったり、私達が食べさせて貰っている位だったんです。」と昔の暮らしぶりを知ることができた。 5月「あーフキ食べたいねー。」と食事摂取量がなかなか向上しないAさんから「食べたい」という言葉が聞かれ、直ぐにフキを採取し、料理が得意だったAさんと一緒に煮物を作ることにした。 6月再びAさんから「フキの煮物いいね」と言葉が聞かれたためフキの煮物作りをする。フキの下処理中に「おにぎり食べたいね」との言葉があり、おにぎりを作って中庭で食事をする。 8月ご家族参加していただき担当者会議開催。 ご家族と外食へ出掛ける。 10月デイサービスを利用していた際の知り合いに会いに外出。 その後も月1回程度ご家族との食事を楽しまれている。</p>	<p>③活動の成果と評価 ・2018年1月にきざみ食から常食へ形態変更したが、摂取量の向上には繋がらなかった。 ・2018年3月までの麺類、パン類については直後は少し摂取は進んだものの、徐々に摂取が悪くなり、全体的な食事摂取量の向上には繋がらなかった。 ・2018年4月の担当者会議にご家族に参加していただくことで、5月のフキの調理へ繋がった。 ・5、6月のフキの調理以降、食事摂取量の向上、体重の増加が見られた。 ・家族と外食したり、以前通ったデイサービスに知人に会いに行くなど、活気が出てきた。</p> <p>④今後の課題 既往にパーキンソン病や進行性核状性麻痺があり、今後身体機能の低下、嚥下機能の低下が考えられる。今後もAさんとのコミュニケーションを取り、家族との関係を密にし、意向や嗜好品の把握、どのような人だったのか？という情報を蓄積していき、Aさんが望む生活ができていくのか？Aさんらしい生活が継続できているのか？どのように最期を迎えることができるのか？ということを担当者会議等で家族とも共有し、Aさんと向き合っていきたい。</p> <p>⑤参考資料など</p>
---	--

※「応募用紙」とともにメールにて【4月26日（金）】までにご提出ください→ roushikyo@dosyakyo.or.jp まで。